

畠谷譜

日

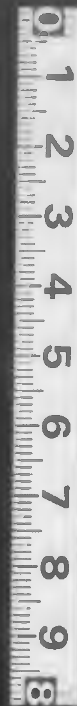
杉浦

二百十一冊之内



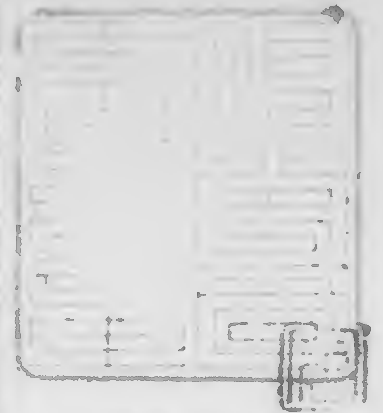
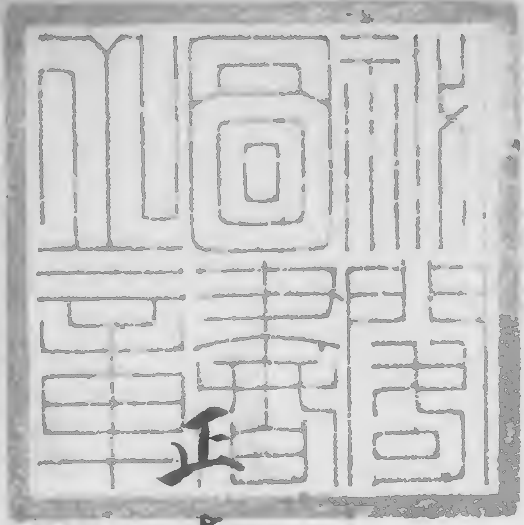
内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(203)
函號	156 17

共七



147
598

東照文治代



松浦

平姓

言八子石

家紋 九星

松浦八郎又郎政重惣松浦大郎
又郎政次二男松浦孫一郎親貞惣
松浦長九郎親次二男

正友

内苑元越後守市左衛門

市左衛門

文祿三年月日

記録御用所

東照宮下初見○孝安三年秀吉公

薨去云々

東照宮伏見津左城有年位○同八年

上杉京橋謀叛有下野五山位

○石田三成送意有上方水袋向伏

見○同十九年大坂水陣伏見○元

和元年大坂水陣伏見○同十九年

八百人出陣○相別之月有米知六

百石好飲○

右徳院殿津代赤地夜初之月二子晉

石○寛永三年八月十九日水上浩

年伏叙壽一七越後守と栞と○

同十九年二月三日水部定頼加栞

子名○孝安元年月日品名有栞

為常加栞有子石と成○如磨

二年正月十二日病死○万治元年

六月十日病死有年米地と養

老料と得○寛文二年九月

九日死半年六歳法原中栞と中

長教寺の事

正照

内藏元 市右衛門 市十郎

実同姓忠左衛門親俊二男

一山

解養子。寛永七年月日小僧
食禄二百俵。同十年二月廿
日百石相成。同十一年六月水上涨の
故。同十二年四月日先社兼代
也。○万治元年六月十日家持。同

二年二月七日甲府水害。同年四
月十八日水害。同三年九月七日福
○寛文三年月日上野火。同
八年月日中川水害。同八年
十月日水害。同九年十二月
宗樹院殿十七回。同宗法。同
○同十二年二月廿。天樹院殿七
回。同宗法。同宗法。同宗法
六月八日本院殿一回。同宗法

常憲院殿 浪石代 美加 拾係

之丸 祿清 卷 祿又 丸 祿 欽書 敏上
○同十四年八月十六日死 八十八歳 同
寺

正植

然之助 市十郎 市左衛門

兼應三年十月廿八日初見 ○延宝二
年四月十一日死 八十八歳 同寺

正職

出雲守 内務允 市十郎

實正植也

延宝六年十月六日初見 ○元禄十二年
七月六日家傳 ○同十三年正月廿
百八組之次 ○同十二年十二月廿一日布衣 ○
室永八年同正月十八日初見 ○
○同二年二月九日叙爵出 廿七歳 ○同
年四月廿八日大工郎殿 四段 廿二月

水白髪就とせし、水祿候〜
内後三根之平叔と賜ふ。同九年九月
朔日駿府に書水照。同六年四月
晦日駿府より使来と云大五郎殿に
清梵一節就と。同八年正月十日死
年一歳同寺

正奉上

出雲守 内苑元 隼人

実同姓武彦清政令六男

宝永八年二月廿九日養子家持。同
同年六月廿日初見。正徳二年二月三
日と云る。内方甚三郎と云。同
又年天樹院殿又十四と云。水法寺
中勅書。同六年正月廿日上屋敷下
屋敷敷焼。内方甚三郎候
大久保玄蕃。水須智作。同
年六月廿八日火消役。享保元年
七月廿二日布衣。同二年正月廿二日

年六月二日家持○延享二年十月
十一日死二十六歳同寺

正勝

丹波守 出雲守 豊元

延享二年閏十二月二日家持○宝曆
三年十二月六日初見○同六年八月
十日駿府加賀國○同年十二月廿
八日小姓○同十年七月十八日叙壽出
○明和元年七月廿九日卒同日死

山ノ下

東照宮百五十回御忌勅會万部御執約
御用御所○同十年十月廿八日
小姓組書以○同三年八月廿二日
御子○同四年四月
十八日御書院書以○同六年八月十八日
御書院○安永五年
御書院八親○御書院御心○天明四年
十月廿日御例○同五年十月御

後明院殿清筆美管三蝶之清画押从。同

年十二月十八日小袖押从。同六年

十月四日

後明院殿清出箱之付年同十八日清石

水小袖二水帷子二水麻与下一具水裳泔

与下一具清草与下一具群从。同年

十月廿二日清遺物。之。美徳國正

利白鞘水刀群从。同年同十月廿日

是近之通之勤方。同七年四月廿日

將軍 宣下相海三月时後之物。同

年八月三日清神局水祝儀。之

縮緬五卷と絹。同八年二月廿日

水理髪水祝儀。之。縮緬二卷群从。

寛政元年二月八日清婚礼水内祝儀

海二月水祝儀。之。縮緬二卷群从

。同年四月二日淑姬去清誕生水祝

儀。之。縮緬二卷群从。同日年

十月十八日

若君清多直二月同上。同年十二月廿日

病歿。同八年八月廿七日丹後
子改。

正僖

專助 市十郎

実水野之改守忠見三男

寛政二年二月廿六日解養子。同八
年十月廿八日初見。同十一年三月
十二日四歳之息。凡実守子に成ると

東照文御代



松浦

高子又百石

平姓

家紋 丸に内之川
三ツ葉

葛原親王御子高見高望分出松平
八郎義國八世之孫松浦八郎五郎改
重の惣佐大八郎又郎改次四男

久勝

久三 惣佐

三洲少く初年より

東照文に在位夜に軍功ありし永祿六年
三洲少く一向宗一揆の付兄を自見と
たよ上和田よましく忠功と励む時
三洲三木村少く食禄と賜ひ自
弟も清純文以載。元龜三年上
月廿二日在州味方原一戦の付大久保
七郎右衛門忠世の馬を中り馬了
ころり付久保我言ると七郎右衛門の
換く久保純文の成く敵陣と駆入元

敵一騎討捕を馬の糸由りて敵義
来久保夜に内合防戦後相、内忠世
右の首下馬と見す大に其勇功と
賞しそ別を言徳

東照文に在 石久保於 沖前家 沖威
の教命。天正二年四月遠州乾合
戦の時清忠の子と望大久保七郎右衛門
多の属し軍功ありし教を不徳と為

○同三年長篠陣付在。同八年

信州伊良波一戦は往年の同士一存
四月九日尾州長久之中合戦の時軍
功と稱す清盛忠と仰る。同十三
年同八月信州上田城攻の時久
孫大之保忠世より角味方利と
久の退く欲慕ふ久孫殿とて款
と防よく味方恙なく陣せり。
天正十八年相州小田原陣往年の
宗長八年信州上田城攻の時大之保
相持より角旗年約款とみえ

旗と進め早く屏際、付る能

右徳院殿清旗不より水軍法ヲ背く由

尸耳三月早と旗とて或揚る名相持

尸報とて一より一旦附る旗一或揚

或功版ニ及つたは成る勢と区産

不或揚故大之保相持より同加等

父子及難依中と承り是故地より

同年九月七日功版寸を故

東照宗御上洛の時今天下よ武功の立ハ

天正十八年相州小田原陣
同十三
年同八月

大久保相模守家の松浦惣左衛門
左衛門の御河守の時此邊智の御忠
左衛門の元年信別上田より水軍法
とありて此後せしむるに上田より水
憤怒ありて彼勇士の如きなるに
法よりしむるに大教守の御忠あり
とありてありし上意ありけり此邊
智の御忠ありて此邊の御忠と一様
傳はせりとの事長久保元年九月七日
功取付兼平二条相別小田原平

恩寺記

平太夫

久成

天正九年八月言乞祓此一戦の時大
久保七郎左衛門の子より一城臨柵
の月より言乞各河守の御忠ありて
別小田原水陣修年〇事長久保
左衛門陣の時父より大田陣守〇父

生害の後大久保お掬を以て
大坂の陣の所かかると幼少の月介
抱と彩の身かかると忠孝の家
○寛永十八年八月死

十を傍

久真

^{正真} 長子年父生害の後相別大正
勢の同十九年冬大坂の陣の由
とゆくと二條より松浦市十郎

あま面令れ所大森市十郎
月知人と成まより西の手に
後、新松平かかると陣不
房のあより知人、月知地
志、陣屋と備用の月

東照宮上意、松浦惣左衛門將
唯今、何方より、水守、市
十郎、清徳、将十を傍、市十郎
方と、紙、清徳、市十郎、

ぐりりうのハ尋子ひしと上意あり
依く市十郎市七郎家へとり
水之寺みく尋出す時、桑田山小
てお湯とゆい親よ似く水之寺と
望らんと上意みく水化向後清例みく
るしと作し意あり松平右衛門依橋浦
市十郎あ人みく介抱すつとみる作
身し又只家たみく上意三月
足平あまハ大久保かたる忠孝の若
年三月介抱と杉の道みく在也長家

郎ハ押付みみ出る後と上守長五郎ハ
三洲長崎少く拜湯す。元和初年
大坂夏陣仕な桑田山小のるに
て水之寺故乞の計長坂血染大森
市七郎十と勝久とみく、清馬の
たみ方守護せしと水之寺あり
○大坂落城水田陣の得ち坂方
落人の名お給成すつと名お給成又
右衛門久とみく、作付と名お給

根十板家御人。少海陣の時、所
當務少く、少海の故郷、見立、
さし、少海と、御人。元和二年、少
池界の故。

台植院、御人。元和二年、大書

○同二年二月、加、
成。○同二年六月、廿日、
宿、
○兼、
四、

久元

長五郎

元和元年、
於、
○寛永十七年十二月廿日死

改清

久幸 改幸

大陽寺 武之勝 市之勝 安休

智○明曆三年正月十八日歎號二月
金平不為折伏。同四年三月六日
少平人組等以。同年十二月加秩百
石。同月廿八日布衣。寛文元年閏
八月五日

常憲院殿に附くは新親三子不納り
是迄九百七石と熱心市多清
納り別家あり。同年十二月叙
爵大陽守。延宝五年四月八日不
川水殿より鶴姫君清誕生水胞辰

細く水紋作付くは女流。同姓兵九郎
改盛了作付くは

常憲院殿より水盛時折伏。同年月
日鶴姫君白山。水社系水佐。同七年
五月六日。降徳院殿清誕生有養
目。水紋作付くは女流。二男兵九郎
改盛勤くは七石。水社佐の時
常憲院殿清子自水經刀。東國後代。折伏
○延宝八年五月二日。水移徒二月

祚田清殿とある御位。同九年有
吾久之御とありて加賀子石御の
降徳院殿清例作付。○天和二年
七月七日充免。貞享二年十二月
十二日致仕。同日不の月三子不
二男兵九郎と云ふ百名二男九
右美、御くら兵九郎五来五百俵
の養免料と御入。元禄十年九月
十二日死。十二歳下谷池に瑞福成
寺に葬。

大徳院殿清筆和歌水鏡掛物一幅
常憲院殿清筆五社和画掛物二幅對
常憲院殿水鏡刀末國後

右三京掛物

政令

市立橋

武吉橋

別表とあり

政盛

大隅守 山城守 兵九郎 又云坊

万治二年十二月廿八日初見。寛文

元年閏八月廿五日

為憲院殿上階。是日閏八月廿九日。唐米五百

俵納。同二年。閏八月廿九日。唐米五百

年勤仕。同日。光濟名代九夜。寄合

。正室。又年四月八日。小石門。殿。小。中

勢。姫。若。津。誕生。胞。衣。納。之。紋。父。系

勤。同七年五月六日

淨徳院殿清徳生有墓目之紋父改
清勤有女海作有。同八年五月
二九、水移徒以故

淨徳院殿附西九勤。清瀬云以故。分
合。貞享二年十二月十二日。家持。

元禄十二年三月廿八日。内使番。同

年六月廿六日。尾張中納言殿。逝云。有

水戸上使。同年閏九月十日。一統

水救。幼。時。根。音。板。母。氏。同十四年

六月廿六日大坂御目付同七月朔日
出陣同十五年三月十八日御得寛
永二年八月廿三日後府御目付○同三
年正月十日西持筒院○宝永五年
十二月九日水陰年約同日叙爵公
城守○正徳五年六月廿九日辞免
男合○同年十月十日叙任左兵衛
料三百俵○享保六年正月二日
少千之藏大塚守侍与安

改英

改長

兵部左近外記 惣左衛門者十郎

延寶六年正月廿七日神田清殿少
常憲院殿上初見水子自出願計取載
宝永六年四月六日西書院高○同八
年五月六日乘馬上覽正徳元年
五月十日乘馬之儀賞令了取○同八
年十月十日家持○享保五年十二

月二日死享年九歳下在福成寺葬

改武

金助 主簿 兵九郎

实 左保明羽子殿后 叔浦平吉妻久長之男

享保五年十二月廿九日家持御前合
○同六年二月廿九日初見○同九年十
月日水書院番○同十一年二月廿
原水將騎子勢子○元文元年十二
月廿九日死享年九歳同寺

好改

仁三郎 大守 改仁 快休

美同姓出巻寺の正奉三男

養子○元文二年二月廿九日水書院番
合○同三年二月十九日初見○明和八
年十二月七日初見○安永六年四月
朔日死享年三歳同寺

改辰

主膳

修理

明和八年十二月七日家傳寄合。
安永元年六月十日初見。寛政
七年十月十九日馬紉上院西浦
物於裁。同八年九月廿日乘多上
隨

東照文清代



松浦

高七百石

平姓

家紋

丸目三ツ引
又行は菱

松浦八郎義國十代松浦大八郎

改次四男

久橋

惣左衛門 久三

東照文清在任軍功有り。永禄六年

三河一向宗門一揆の時見在貞

とてよ上和因ふ能く忠切と忠
くく會福と約ハ清直筆と
大隈文乃載る後大久保七郎右衛門
忠世の旗下のり。元龜三年十二
月廿二日幸別味方原水合戦の時大
久保七郎右衛門忠世の馬失中て
誰一耐久捕已るるといふ久保
歩約立て成て敵陣へ馳入一騎打
捕某のるに幸あゆる途年、敵慕
来しハ防戦し濱相のゆるを

首をひきと七郎右衛門忠世
ハハ方々に勇切と賞し上りて
なりハ津威快と揚。天正二
年四月六日幸別乾之城日天野
月左衛門西攻め時西迄多かり防戦
して教示不敵とゆる。同三年三
月長原水合戦時。同四年
幸別伊良津一戦時。同五年
四月九日尾州長久寺水合戦の時

て切腹守年二十二年其後
 東照家清上洛して帝命天下を武功
 の士は久保深相挫き或は松浦惣兵衛
 忠つとくありし上意は利永進習
 して久保惣兵衛の先年西軍法に
 背き切腹ありしをよせしめ
 沖愈怒極りしを勇士の縦令法
 としむる大勢を一つに悔ふも
 りしやうのふらぬるを感懐守
 成より一族を侍中より奉りて難を

と名威のふらぬる

久保 平太夫

東照家上侍任天正九年二月廿二日
 初言天神に一戦し討大久保七郎を
 忠世より辱し言名にりし。同十年
 相州小田原の陣任年。孝長を
 信州上田より父日害の故大久保

相模守家より書す。同十九年八月
清陣の爲に大久保加賀守忠任初
雅二舟弁抱し頼るも雅黙心忠任
うぬぬと書す。

久真

十名場

考る長五年九月七日父生害の夜
大久保相模守忠清の病より書す。
同十九年正月相模守左遷の後

相列大士の執事。同年九月大坂
清陣の爲に大久保加賀守忠任初
市十郎西友宅に在り其席
大森守七郎に在り其右の人
先手に在り紙の底に在り其
守利乃其臣印多安房守紙依舊
知尋至日人陣に在り其

忠任守七郎に在り其右の人
先手に在り紙の底に在り其
守利乃其臣印多安房守紙依舊
知尋至日人陣に在り其

子長可有之今何方二名也
上意之在松浦市十郎受友得与
惣在松門二男十之坊候也此私
宅尋来今致所所之也名尸
因馳系之候大森守七郎其年
在十少以令市十郎及守七郎久
真候ヲ之相尋名所作并刻於清
之字尋候依上意久真候於柔白
山沖陣也

東照宮上初見之時刻上意之其御儀又

又重之澤向及沖例二名也松平
右衛門佐松浦市十郎西人上久真
候女抱之候名所作并具又女是也
有之小下在名所沖尋名所久真謹
足平左衛門候之久保忠任就初稚
女抱相形名所難然心忠任也此名
在名所長又郎候之押月名也言
有上言其後長又郎候沖浦陣
之在松門別名所沖目見候也

元和元年夏大坂少陣休年於
桑田山色清光中礼位有之刻
長坂血塗大森守七郎十之實
真

東照宮清光山色清光中礼位有之刻
護形勢清光山色清光中礼位有之刻
大坂落城少陣休年於桑田山色清光中
礼位有之刻
西人上作付之免和元年獲根
十枚約々々。少陣の御三別是信

元和二年四月十七日
○元和二年四月十七日
○元和二年四月十七日

名徳院殿附同年月日納戸紋。
寛弘九年月日大坂番。同十
年二月官石海原。同十一年六
月清上洛休年宿別紋。同七
年月日清具足年約。兼應二
年十二月十九日死七千八百歳。同

理性寺りせいじの事

久元

惣兵衛 長八郎

元和元年月日

東照宮とうしょうみやに石出いしだの道みちを仕立しだてて後のちに
於おく水戸中納言頼房みなとなかつなごんよりふに上あり

改清

久幸改幸

大陽守 武吉清 市吉清

寛永八年九月十八日初見はつけんは寛永
九年八月日大正番おほしりばん。同十年二月
七日新親しんしん三百石得とり。同十年八月
五日品川しんがわに於おく水馬みづうま持もちと勤とむ。同
十二年十月七日板橋いたばしに於おく水麻みづあ
將しやうと勤とむ。同十三年四月新しん守しゆ
。正保元年釋寺しやくじ野のに於おく清麻しやうあ持もち
。同二年に新しん水みづ番ばんに於おく清しやう麻あ
と備とむ。同三年に水馬みづうま前まへ、水馬みづうまと

負格多と迫る勅在事の山平九巻
改清之入く右の貸給とく
室の〇同三年三月日水野野伏
年女子沖館 入沖の養修とく
地蔵有一二月水野九、沖使作月
り道沖馬英口附二人の水少人
孫借揚鞭良内宅 城美忠告
同に於く水先中河部對馬と水先
致し其水先對馬と澤白紅葉心
沖言 沖佛殿之丸 御之末別家

云水丸

嚴有院殿沖機姫 其の習不此紙之
度辰沖清を其の西の爲す其酒
并紀伊守枚浦内親元杉平左衛門
九月月之城紙方と其の外南水先
番以未未席と其の末分良別退出
馳ゆる事田細村と樂寺前とく
沖駕多孫と其の沖服と牧野依海
中根次郎た其の二人馳るは三月河部

對了也。清請之類。之止。盡。能。存。○
同日。年。四。月。日。光。清。社。示。能。存。○同
年。五。月。十。八。日。示。納。戶。○二。病。少。く
初。術。英。十。文。字。繪。入。身。度。能。存。○
○同。年。九。月。十。七。日。初。術。所。打。右。方。作
行。之。上。意。も。て。柳。生。能。深。也。同。身
も。つ。ら。○安。三。年。八。月。十。日。兼。三。元
少。く。初。術。所。相。子。本。力。繪。少。く。入。身。仁
少。く。清。石。所。也。惟。子。一。年。所。年。自
相。所。○同。日。年。二。月。日。迫。後。宅。之。助

中心勸解申旨永孫在末つ塔汗云
其亦大勢捨功志之志光清前少く
一人究試合作身之過以清一人光
相子勸一と云賞養可也。同。年
四。月。廿。日

大徳院勸養清二舟以清東叡心少く
利發一日光 清遷彦之首能存
○兼應元年八月日中興水為同
二年十二月廿八日水後。明曆三

年正月十八日教養育令早五
 拜从。万治元年三月六日半令
 ○同年十二月廿八日加秩三百俵。
 同月廿八日布衣。○寛文元年同八
 月十日祢田清殿所家元作付
 新親之子石石別家。作付。是如
 七百石。嫡子市之清改令上。下
 大猷院殿冲筆木免水画水掛物一幅
 鴨菊总画 揮墨筆 一幅
 漢伯右冲花入 一

右少納戸勤致中拜从

武之清 市之清

改令

孝安元年七月十九日初見。○兼在
 三年二月廿七日水書院書。○明曆二
 年十二月日唐米之音儀初入。
 寛文元年同八月十日父改清新親
 之子忠初。同十年十月父之忠

七百石改令に納りし津藩不在位
りつゝと方。同年十二月廿八日父叙
爵の時或る語あり改。同二年八月
十日藩府より出候。其後久能
津藩下津殿前新道。此等語あり
作付。○同九年同十月十八日法
番改帳令之。○延宝三年二月
十六日新地屋敷改。○同四年正月
二十日新地屋敷改。○同九年二月
二日新地屋敷改。○同九年二月

七百石改令に納りし津藩不在位
りつゝと方。同年十二月廿八日父叙
爵の時或る語あり改。同二年八月
十日藩府より出候。其後久能
津藩下津殿前新道。此等語あり
作付。○同九年同十月十八日法
番改帳令之。○延宝三年二月
十六日新地屋敷改。○同四年正月
二十日新地屋敷改。○同九年二月
二日新地屋敷改。○同九年二月

同年同九月十日令七千八百兩
○同十四年正月十一日
○同年十二月十八日
○同年六月
○六月廿六日
○百死八千一

恒隆

一玄場

寛文十二年八月十八日
六年十二月九日
年六月廿六日
三月廿九日

正義

十玄場

年右

實水野小左衛門
正徳四年二月廿六日

享保三年三月甲子家持小
名彦信。同日年十月十八日泉出姓
。同日年十二月十八日西九附。同日
六月形。亦書院者。同日年十
月九日死。六十二歳。同寺。

正積

武多橋 惣平郎 辨五郎

実同姓八郎五郎信照二男
享保十九年十二月廿四日解養

延享四年十二月廿四日家持小
信。寛正二年八月九日西九附小
性。寛正二年三月大の上院
附。同日年八月三日西九附
。同日年五月廿七日病死。亦書院
。同日年八月三日。致仕。同日年
八月十日。死。六十二歳。同寺。

正悦

十三年 十三年

寅同姓十兵衛正表二男
宝曆五年九月廿四日養子。明
和五年八月三日家法。小吉信。
同年同月廿四日西北小性組。
日八年四月十日。水介九助。三
元年五月廿六日。水介九助。同年
同十月廿六日。水介九助。寅返元
年六月三日。水介九助。寅返元

正安

武吉橋 岩助

寅同姓十兵衛正表二男
天和四年十月廿七日。養子。寛
政元年八月四日。家法。小吉信。同
八年六月二日。小性組。同年十二月
十日

若若附

信忠表沖代

大八



叔浦

字五百石

平姓

家紋

此角横三行
右白三行

一品或部卿高原親王後孫三浦大助

義明子叔中太郎義宗長男三浦

和田在基門尉義盛八男叔中八郎義

國叔浦之叔義國公世後孫

叔重

八郎五郎

信忠衣に奉仕

改次

大八郎五郎

信忠衣に奉仕為に戦功ありと云ふ事

数に不慮と云ふ事

清康君より奉仕すべく奉仕せ給ふ

右頁

大八郎五郎

清康君
廣忠君

東照太子奉仕。弘治元年尾州蟹江

城攻の時大久保新八郎忠務同甚

田郎忠貞同七郎左衛門忠世同諸

左衛門忠佐河部田郎五郎板浦大

八郎五郎右頁同八郎又郎侍右

軍功ありと云ふ事以解蟹江七郎侍

将守。永禄六年三洲上和田一向宗

門一揆に付大久保一族を以て勇功ありしに威怖并か恩を承色と爲す

八郎五郎

勝右

廣忠右

東照宮に奉仕。弘治三年二月廿日参
別日逆。於て相平右京亮吉春
討死の初酒井左衛門尉忠次清田
八右衛門大久保又郎左衛門忠清同

甚右衛門忠依眞勤古吏河野口所又
郎忠政太原左衛門右衛門八郎又郎
勝右と云ふは福金の子と云ふ。永
祿二年今川義元の抱尾川右衛門の
城を糧乏く及難儀と爲すに款陣與
今川家より入志す。義元

東照宮に御頼大に儀兵糧乏く難儀
及ふに之を以て志す。此物あり
を糧清入御と云ふ。此物あり

四郎左衛門内藏甚又左衛門内四郎
左衛門石川十郎左衛門八郎又郎左
見の母は老し各款の堪と謀く
今日兵糧入不可付と申す
八郎五郎侍者一人早速兵糧可入
申す上せしと

東照公御名に侍者一人有甚
早速兵糧可入申す
十匹兵糧二年俵附し
炮二年又挺と小銃結の事
申す上せしと

八郎五郎侍者侍二年人足
百連入し
向宗門一
換の付者員侍者一
元龜三年十二月廿二日
少く

東照公御退陣
又就八郎五郎侍者
殿作

めくれず

四郎左衛門内後甚又左衛門内四郎
左衛門石川十郎左衛門八郎又郎又
見の母は老しふ各款の勢と謀く
今日兵糧入石可付とやしつふ
八郎五郎播磨一人早速兵糧可入
申上せしと

東照公國石川左衛門多有其謂
早速兵糧可入申上りし小若松
十匹兵糧二年俵附しら二年又張次
炮二年又挺と小若松の事は了と云ふ

八郎五郎播磨侍二年人足將三年人
百連入し一が大切と云ふは此類

永禄六年一向宗門一
揆の附者貞播磨一類同和同
と云く大久保一同は忠切と勵心
元龜三年十二月廿二日遠別味原
かく

東照公御退陣西陣勢致意の刻算
又就八郎五郎播磨を殿作付し

拙我功よりく 中宗と云 水松花の
水矢 根 三平と云と徳義にゆき。正
三年八月廿七日参川長藤表水一
戦の付久世三郎坂部三平郎八
郎五郎此三軍高名地不朝。一
水道具とゆりの八郎五郎。八年安
城長を水松とゆき。同又存
遠州伊良水一戦の付殿作付。是
を我切と云。其後一り。七清感状
と揚。同十二年長久寺水一戦の付

軍功と勵じ。是上父存貞。同安九
右の藤月と云。射無と云。不と云。是
名守依。水威水。水一。水一。水一。
同八年。同東沖入國。付参川。水一。
水一。水一。水一。水一。水一。水一。
刑部。水一。水一。水一。水一。水一。水一。
又月。水一。水一。水一。水一。水一。水一。
印。水一。水一。水一。水一。水一。水一。
水一。水一。水一。水一。水一。水一。

長右衛門 邦樂 強兵衛 上使 あり
加 榎子 五百石 揚子 あり 作 あり
病 年 中 儀 あり 江戸 中 紙 清 儀
の 儀 あり 上加 榎 大久保 相 持 あり
預 儀 あり 病 年 儀 あり 言 是 未 二月
晴 右 小 男 貞 勤 在 患 同 助 儀 持
看 病 あり 傾 地 山 在 村 あり 不
持 右 女子 あり 男子 あり 二月 有 あり
人 あり 大 久 保 相 持 あり 近 あり あり
東 照 文 清 貞 儀 あり 年 養 子 あり 作 あり

長 右 衛 門 邦 樂 強 兵 衛 上 使 あり
九 日 死 儀 他 山 在 村 儀 あり 寺 あり
相 持 あり 後 又 有 松 浦 平 右 衛 門 子
久 義 儀 年 養 子 あり 作 あり 不知 三
百 石 あり あり

勝重

八千郎

東 照 文 清 初 少 右 衛 門 永 祿 三 年 不

月水将下野守信元参刑前屋敷
外十八町園穀の付大久保又郎左
目七郎左衛門石川新九郎左衛門
の付討死

勝次

八郎又郎 久亮

致仕
三樂

実松浦平左衛門成徳男

东照家

台徳院殿、奉仕。大永番。長十九

年大坂冬陣侍年。元和元年
大坂夏陣、侍。侍見城守。大
陣、侍。侍見城二年。長番。

东照家

台徳院殿、御座。少く河越。少く野場
不と野呂文左郎。少く。侍見。侍
後。不。見。但。馬。金。心。少。侍。見。侍。其
四年。武。別。是。家。心。官。侍。建。三。侍
侍。侍。三。侍。年。勤。仕。

台徳院殿

大徳院殿 清上洛の侍年。寛永七

年二月元方中令年幼。正保三

年四月病死。小書法。寛文五

年四月六日改任嫡子八右衛門

二男右郎左衛門。家格と譲る。同八

年八月十八日死。年一歳。後家長

致寺と表

勝重

八右衛門

寛永七年六月十日初見。同月

廿四日より毎月毎夜宛本帳目

位。同年十二月朔日大庄番。同九

年迄至是の月金銭錫。同年

十二月より唐米百俵納る。同十

年加増二百石相成。同年八月

品川より西馬場と勤心。同十二

十月七日板橋少之少麻村と勅じ。○
言田少之乗了致勅じ。○同十五年
月日病免小菅少信。元禄四年四月
九日病免有来他由に十人只約人
○同十三年七月四日死公年六歳
中佛心寺安

衛長

八郎又郎

没位
元八

寛文八年二月八日初見。○同年四

月六日家終。○同年同月廿六日大書
○貞享二年大坂立書之内中金宰
領附後二切取。○同三年七月十二日
寫土見番以。○元禄十四年二月廿六
日免。○同十六年十二月十八日没位
○宝永六年十月四日死公年十九歳
同寺

勝照

八郎五郎

新五郎

没位

道平

突同姓或名勝改令 男

天和二年十一月廿三日。養子。貞喜
元年八月廿三日初見。元禄四年
十二月二十二日。書。同七年十二月
廿二日。書。改養金五石。同十一年
六月七日。蓮池少之。乘馬作付。同
同十二年同九月十五日。書。救金二千
石。同十二年九月十五日。同

町。之。乘馬作付。同十四年四月
廿九日。藤河。少之。乘馬作付。同
同十八年二月廿九日。書。組次。
同十六年十二月十八日。家譜。同月
廿三日。加秩二百石。享保三年二月
廿三日。二月。書。院。引。渡。御。用。同
年二月廿七日。院。院。院。院。院。院。
向。信。作。付。同。同。同。同。同。同。
同。同。同。同。同。同。同。同。同。同。同。同。

亦之子也。法範。同。年。上。月。春
 布衣。同。九。年。三。月。上。旬。以。有。德。藏
 博。愛。改。同。十。年。二。月。上。旬。加。授。法
 免。同。十。二。年。八。月。上。旬。來。四。月。日
 之。世。在。作。身。之。同。二。十。年。同。三
 月。廿。二。日。米。倉。主。計。以。海。自。新。書。五。次
 以。到。將。米。倉。福。之。郎。成。和。遠。之。
 同。八。月。十八。日。出。級。出。免。上。書。信
 入。同。年。八。月。十八。日。上。書。和。法。免。之。寬
 保。二。年。七。月。廿。六。日。被。任。之。之。宝。曆

又年四月十日官死八十八歳同寺

勝成

新太郎

寛保又年七月朔日初見。同。十。二
 年。九。月。七。日。死。二。十。一。歳。同。寺

勝包

八郎又郎 半郎

享保十八年十二月十日初見。○寛
保二年七月廿三日家傳小普信。
同二年三月十八日田安勅書。○延享
元年十月四日勅書。○同二年九
月十日小普信。○同二年八月廿日
朝辭。○傷少之騎射。○上院令二枚
○同年七月晦日馬好。○同五年
二月十日。○吹上院射。○上院令二枚
○同年同十月十日。○吹上院射。○上院

好。○同年十二月十七日馬好。
○寛延元年十一月十七日馬好。
同二年三月十日。○吹上院射。○上院令二枚
○同年十月十日。○一統騎射
上院令二枚。○同二年三月十日。○吹
上院射。○上院令二枚。○同年七月晦日
馬好。○同四年七月十日。○一統
小普信。○宝曆二年二月廿日。○書
院。○同年七月十日。○死。○同古

勝尚

八郎五郎

宝曆二年十月二日家持小普信。
同八年正月三日初見。同十年九
月十日大所為。同十二年四月十日
新所為。安永元年六月十八日病免
小普信。同八年十月廿二日死。年
一歳。同寺。

勝愛

八郎五郎 万五郎

安永八年十月廿二日家持小普信。
同九年十二月廿二日大所為。同四
年六月七日新所為。寶文元年三
月廿五日病免。小普信。同六年三
月廿五日中里少之兼子。上所見。

台徳院敬謝状



叔浦

言又百名

平姓

家紋

丸角三片
云形川菱

叔浦惣左衛門久持二男十左衛門真
惣左

大隅守

武吉

市左衛門

印

安休

改清

寛永八年九月十五日初見。同日九
年八月日部屋修方大所書。〇〇〇〇

又月倉之字為相成。同十年二月廿
或百之幼人。同二十年四月日新當
○正保元年五月十八日水納戶○
永應元年五月日中興。○西曆
四年三月六日十人院。同年十二
月廿八日加授之百俵。同月廿八日布
衣。○寛文元年同八月十日祇園寺殿
出家元紋作付。是日新親之子石佛
小中知七百石。○惣所武三傳之天下
○同年十二月日叙壽乃大隅守。○延享

七年五月廿六

降德院殿冲德生之附墓目之紋作
付。是日同午二言也七敷之所祝儀有

為憲院殿清子自出服危來國後
好成

降德院殿上水服指大和劍長 代奉拜
越上。延享九年三月八日加授子不
物

降德院殿冲德例。天和二年七月

不日辭免不取受法。貞享二年十二月十二日。改任中納言の二男兵九郎、
右之兵九郎取来五百俵の普光
料并給ふ此付之旨。貞享二年十一月五日
三男右衛門、分給。元禄十年九月
十日。死年十二歳。中納言池田福成
寺より葬

改令

武吉甫

松浦武吉甫 西安の家

改盛

大隅守

三九郎

松浦修理 改盛の家

改信

改信

寛文三年三月廿二日。初見。同年

十月十九日。小姓組。同五年十二月

廿五日。唐来二百俵給ふ。貞享三年

十二月十二日。和紙。同五年。同六年

七月十八日死。年七。葬。法皇御所。院。池。中。玉。泉。院。之。葬。

改藏

市左衛門

元祿六年十二月九日。中書院。書。○
宝永二年二月廿二日。進。初。書。○
同。元。年。正。月。十。日。西。丸。方。西。之。院。書。○
總。之。進。初。書。西。丸。中。書。不。勤。也。一。書。○
同。元。年。九。月。廿。九。日。家。傳。書。○。宝。永。

六年四月十日。進。初。書。○。享。保。三。
七月。三。日。進。初。書。病。死。○。同。七。年。又。月。
三。日。病。死。少。老。書。信。○。同。十。八。年。九。月。
十。七。日。死。五。十。九。歲。同。寺。

改藏

市左衛門 市二郎

享保十八年十二月二日。家。傳。書。○。寶。
元。文。二。年。十。二。月。四。日。少。老。性。組。○。寶。

延和元年七月十一日一月小菅彦信、安永
二年三月廿七日小菅組、安永七年
十二月十日、痛死小菅彦信。天明元
年八月四日、病死。同年十二月廿
九日、八歳同守

改爲

小菅

龜之助

天明元年八月四日、病死小菅彦信
○寛政元年十二月十日、病死八歳

同守

改記

右胎

實朝法皇末女盛連 男

寛政元年十二月廿七日、病死
小菅彦信。同八年九月十八日、病死
彦。同七年三月廿日、小菅彦信、病死
馬。同八年三月十日、病死、同後二

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

東照文清代



松浦

高六百二十石

平姓

家紋

九角二ツ川
三ツ川
九曜
裏考

松浦藤次郎時衛二男

吉成

吉右衛門

東照文清代仕。考。長。又。年。少。好。國。小。
山。陣。場。近。子。立。同。國。原。出。陣。仕。年。

奉命と仰入。同十九年大坂水陣
修年の内津等水程冊御成物と云
亦出りしりよの上意少く亦是片
之修ね成。元和元年大坂水陣休
年。同二年

名徳院殿附。寛永十年

大徳院殿より加杖三百石御成。同三
年五月十日正午七千歳小日向新具
寺より發

正名
長楽つ 長丸

東照宮

名徳院殿御代水迫留。大坂水陣
修年。寛永十二年家書。大坂書
。同十七年六月十日水原書。書以。
同十九年二月十日加杖三百石合八
百二十石内二百石。二男平右衛門

知。同平年九月廿九日。死五十一歳。

長勝

豐千郎

寛永二十年。家法寺書院番。
○病歿。少長。寛文十二年十二月廿五日。死。一歳。武烈。於祓部。野志田村。南宗院。二歳。

直勝

長左衛門

延宝元年七月十日。家法寺書院番。
信。○享和元年二月廿七日。家法寺書院番。
○元禄元年十月廿九日。死。一歳。同子。

長勝

宋女

元禄元年十二月廿日家持少将
诔○同二年同正月十八日初見○同
十三年二月廿六日中書院書○亨
保六等十月廿一日死早葬市名
長延寺子孫

清信

右左衛門 万三助

正徳三年十月十八日初見○享保六年
十二月廿七日家持少将诔○同十一年同

廿二日中書院書○宝曆九年十二月廿
二日死早葬同寺

勝貞

長門守 少将 長門守 安太郎

享保七年十月十八日初見○元文五
年十月廿六日西九水小納戸同葬立
月廿日布衣○寛保元年九月廿日
西九水小姓○享保二年九月廿八日

少外北親同年十月十八日叙青長
門守。宝曆十年三月五日家後
○同年八月十五日。二九月止宿佐
○同上年六月十二日。

信院殿憲法二月落髮作僧。○同
年八月。同小納戸。○同十二年上
月七日。少年人。○安永四年七月。皆
由之。子。由。後。院。○同八年三月。皆
火。方。盜。賊。改。高。令。加。役。○同年六月
同。加。級。同。九年八月八日。

孝恭院殿冲廟番勤。○天保八年三月十日。足。有。白。

後明院殿冲廟番勤。○天保八年三月十日。足。有。白。
政八年二月廿九日。死。七。千。八。百。同。年。

勝明

頼母

延喜三年八月。言。新。親。在。出。九。現
未。卒。不。三。年。人。技。持。御。り。

萬次郎殿迫羽習書。安永六年九月十八日言三百條。成爲時清水勤書。松浦大格之歌。

勝俸

長門守 下總守 伊賀守 安永郎

安永十年八月廿六日初見。乙卯巳年三月又日吹上。景康上院反物。寛政元年四月又日同上。同三年十月廿八日亦小性組。同三年九月廿六日的。

上院時被云。同三年九月十九日。龜の上院反物。同三年十月十日亦小性組。同月廿六日亦小性。同六年六月廿八日。

若君附。同年十月廿六日。淺原助清。成亦修弓。爲射。爲時被云。同年十一月廿二日。亦亦丸。同七年二月廿六日。小令原亦將。同年五月廿六日。亦筆也。給好。同年十二月廿六日。

叙爵浮賀守。同八年八月。之家
侍。同九年。五月。女。子。奥。少。之。太。の
上。院。及。物。同九年。同七月。女。子。西
丸。小。納。戸。同九年。六月。女。子。西。丸。在
小。姓。

勝義

安太郎 哉之助

実徳具二男

寛政九年六月。女。子。同。卷。子。同。年。

十二月。女。子。初。見。

東照文冲



松浦

平姓

家紋

九曜

高八百石

松本太郎義宗長男三浦和留在兼
門尉義盛八男松浦八郎義國十世
孫三河必松浦義左衛門四男

親後

忠左衛門

享長七年新親石出さふ。左衛門

同九年米熟二百石納入。同十二年
依見三年高。元和五年加授二百
石。同九年依見山城米不足二月
水乾没作付。同九年七月。寛永
元年七月。近相勅。同二年。伊丹右衛
と。西人。立合。法。勅。定。改。と。作。付。と。と。
同年。七月。後。長。久。寺。講。忠。丸。忠。丸。人
御。度。前。下。右。道。法。心。心。と。り。納。入。
令。報。年。約。す。と。と。而。令。あり。と。崇。安
元年。十月。西。先。子。西。法。地。以。加。授。百

俵。約。り。八。百。石。と。成。○。明。暦。三。年。月。日
病。死。告。命。○。寛。文。元。年。二。月。廿。六。日
死。○。年。歳。淺。多。不。彰。与。地。内。長。壽。寺
り。發。

親成

忠右郎

元和九年。月。日。水。性。組。○。寛。永。元。年
月。日。唐。米。百。石。納。入。○。同。九。年

月日並加授二百石。元禄元年八月
日移封。二百石。同十
三年。月日大出。寛文元年。月日
家持。二百石。同。延宝
七年。四月十九日。死。七百石。同。

親友

忠古郎

延宝七年七月九日。家持。小菅信。
同九年。月日大出。元禄元年

九月。同。死。二千六百石。同。

親相

実

忠左衛門

忠五郎

甫心

元禄元年十二月。日。養子。家持。小
菅信。同二年。二月十日。大出。同。
同十年。六月十日。病。死。小菅信。同。
同。延宝七年十二月七日。没。同。家持。同。

八月廿九日卒九歳同寺

親愛

又左巻

実景部古作吉久徳七男

宝永八年二月之旨解卷子。享保

八年十二月七日家持小巻巻。同

八年二月廿八日大所書。同十年

地代唐年子留納入。元文元年

十月十七日死享年二歳同寺

満偶

志左巻

杉之助

元文元年十二月廿九日家持小巻巻

○寛延三年八月十日大所書○家持

九年十二月十八日十年上勤二月

令一枚。享保元年四月廿二日大所書

組次。同八年九月十八日死享年九歳

同寺

義通

右左衛門 龜右

實松浦強一郎貞舒二男

明和六年三月廿四日。春子。安永

七年三月朔日初見。天明八年十二

月二日。秋後。小當。信。寛政五年

十月十九日。小當。信。世。信。初見。

九年十一月廿七日。大。信。信。

安永八年八月朔日。王子。第。信。信。

長中里少々半の上院。五物。信。信。

清康若沖代



松浦

高八百平石

平姓

家紋

丸角横三引
鞠挟

松浦丈八郎又郎政次之男

親貞

孫一郎

新より古出さる

清康系

廣忠若上平仁為之軍功あり。天正

十三年十月廿二日別野田少之成
死三年又葬

親次

孫一郎 彦五郎

廣忠表上奉仕為年々教交水陣之
竹年〇元龜元年江州姉川少之
勇戦也〇同三年十二月廿二日
味方原に戦ふに敗れり〇天正三
年八月廿二日別野田少之成

河内守〇元和四年九月十九日死年
三歳

忠綱

孫五郎

山内氏政上侍

親正

孫一郎

東照宮上奉仕〇天正十二年長冬

陣付年。孝長八年。下坂國守
於京御陣の時

台徳院殿。付年。同日。京。付年。
同九年九月十日。死。享年一歳

重次
孫。在。末。つ

東照。子。在。任。孝長十八年。月。紀。後
大納言。在。宣。つ。消。つ

親務
孫。在。末。つ

孝長十四年。月。大。在。番。元和元
年。大。坂。御。陣。付。年。宣永二年九
月。二。日。初。之。身。地。三。百。千。石。御。初。之。身
御。米。百。石。御。初。之。身。同。年。十。月。廿。日。加。祿
百。石。御。初。之。身。同。年。六。月。九。日。加。祿。二
百。石。御。初。之。身。同。年。六。月。廿。日。成。西。保

己未九月廿七日死五十四歳相摸
東郡小和田村知行所尾野内公安

親明

孫一郎

寛永七年六月廿初見同月廿四日
在仕之御縁。同年年十二月廿六日
○同九年十二月廿八日唐来百五十俵
御入。同年年
在仕院殿御遺令御取。同十年二月

七日加授二百石奉之。五年唐来と奉
地母御縁入。正保四年十二月廿日
家持御縁近之。弟地之御縁父の奉
五百石奉之。御縁入。安永三年日
光出社奉御縁御用。同年年八月廿
日出儀奉御縁。同年年十月廿日。御縁
奉之奉御縁。寛文九年七月廿日
二九出御奉御縁。同年年十二月廿日御
縁。同年年二月日友村奉御縁。

三百名納りり多祿以百千石成
○貞享三年十二月廿八日死
○合○元禄二年三月二十七日
二弟 海軍中尉守月長教等
葬

親久

虎之助 市左衛門

寛文二年九月十八日新親石公
一子孫詳あり

是道

彦左衛門

兼祿三年七月十日初見○万治二
年七月十日小姓組○寛文八年十
二月廿八日病歿小倉藩○元禄
六年八月死又兼同寺

貞宣

延一郎 三之助

實是道想

寬文八年十二月廿二日嫡孫永祖
○正保四年元禄二年七月十日家持少名書
信。同六年八月十九日西書院書
○同十年三月六日丹波京津城引
濱津用同年四月十四日西書院書
九月廿八日西書院書。同十二年八月廿
一日西書院書。同十六年正月十八日
少名書院書。同十八年十二月十八日
西書院書。同十九年九月廿八日西書院書

享保五年十月廿二日新法書院。
同九年十二月十八日西書院。同十二
年六月廿二日西書院。

貞隣

孫一郎 孫又郎 一得

實同姓老六郎親時 男

正德四年二月廿八日養子。同年八
月七月初見。享保十二年八月廿二

中書院書。○同年九月四日家譜。
同十九年十月十日中書院書。組。以。
元文四年三月廿七日志村筋進為持
騎了物。子。藤。多。時。後。二。延。亨。元
年九月廿八日清定。子。中。法。地。氏。室
曆七年七月廿八日西丸。持。角。氏。○明
和三年三月十日。免。藤。多。時。後。
三。○同年八月十日。被。仁。養。免。料。三
百。俵。○安永三年六月廿七日。元。千
九。年。同。書。

貞舒

孫一郎 表一郎 得女

享保十八年十月十五日初見。○元文
二年九月廿七日

義表。沖。家。系。系。馬。佐。氏。○寬。延。三
年十二月廿六日。中。書。院。書。○室。曆。十
年正月廿六日。進。物。中。書。○同。十。一。年。三
月廿六日。沖。代。替。清。親。武。勅。一。千。石。

廿後云云納入。明和三年八月十日
家傳。同日年十月二日武州川城
城引渡津用。同日年三月十八日水
眼。同年四月朔。為禱。安永八年
四月日光津社系騎馬位年。同年
六月廿四日。出院院。同年十二月十日
布衣。同六年十二月廿八日。病免。同
合。同七年十二月十日。致仕。天保四
年二月十日。死。年。年。年。同。同。同。

親暘

孫一郎 与一郎

明和八年三月十八日。初見。安永七
年十二月十日。家傳。小。年。年。年。
年十月廿三日。小。性。組。寬。政。十。年。
七月六日。病。免。少。年。年。年。

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 長勝 and 寛永.

大猷院殿沖代



○ 松浦

高四百五十石

平姓

家紋

九曜 九月三日 衰考

松浦長左衛門正右二男

平左衛門

長勝

寛永二年十二月廿二日知二百石。考
安二年十二月日大左衛門。寛文元年
十月日新左衛門。寛文元年。考

同平年五月十日小納戸同年十二
月日布衣加秩二百俵賜以実禄
百五十石と成。

卷有院殿兼清以後一因寄合。元禄
三年八月廿九日死。年一歳。市衣
長延寺に葬。

○小納戸勤役中、枚浦の文字と
以て、清筆と稱す。

勝順

平一郎

長茂

平右衛門

延宝六年三月廿九日小性死。同
四月廿七日三百俵賜ふ。元禄三年八月
廿日葬。享保八年五月七日病死
少善清。同十六年八月廿日死。年一
歳。少島向就園に葬。

某

後九郎

二男分出来等、下出、凡の富永四年
七月廿八日記市、名長延寺蘇

某

侍之忠

水書院番、拜朝日、正徳二年八月廿
日死、年幾同寺

勝春

平右衛門

実富永一学直史二男

享保二年四月十八日解卷子。同
十六年十月九日家法。同十八年六
月、田安勅書。同二十年二月朔日
勅書、清絶。同年四月十六日、清揚方
。寛保二年六月、石堂、後原是二

少力持从。寛延二年十一月廿八日死
五十八歳同寺

勝満

四郎三郎 求馬 平左衛門

寛延二年十二月廿二日死。家持不詳
○宝暦元年五月廿一日大由。同日
年四月廿八日新由。同日
七月廿九日死。年七歳同寺

峯高

又次郎

宝暦五年正月十八日徳徳院殿、
石出。年五十五。口約りの大由
明和八年六月廿二日死。年六日
向龍因寺。年五十五。同寺

勝統

辰之助 求馬

實平因守之然尚賢之男

天保元年十二月十日薨。養子。同四年十月七日薨。後小養子。同八年八月七日薨。○寬政十年正月女。六名。大坂。在。當。少。之。死。早。二。年。大。坂。寺。所。起。善。寺。發。

勝興

孫之丞

寬政三年六月八日二男。惣。以。同。年。四月。同。家。後。少。養。子。

東照宮時代



松浦

高野百儀

平姓

家紋

丸角三日月
丸角三日月

松浦大八郎次郎政次二男

時勝

後次郎

廣忠系

東照宮上代仕務に軍功ありしと傳ふ

相傳す。永祿六年三州上和田に

一向宗一揆に即兄八郎五郎右兵衛
とあり、宗元は其属せし戦切に付
つと。天正十三年、五月廿二日、前
長崎城石川伯耆守と預備軍
の心算ありて、右岡秀吉より一揆
萩中城とす。然るに、書状に
五月時、後速に馳来しとあり、伯
耆守は逐電せり。一揆は難を法
具不押留ありとのり、河津進せり。天
正十三年、同八年相別、山田宗

陣の元、中多他集つとあり、是、岡崎
城と預りしとあり、同年、二月、此
城内に死す。二十二年

則務

後次郎

天正三年、幸別長藤少と武田信光
と合戦の付、父子信光とあり、長
年、下野國、少と追出陣せし、石田

信部が補三威送意を

東照太子圖画御教向二月

右徳院殿、信部の同年九年大坂西陣の

時強戦して疵と病あり且たりの事

淡路中一二月前の信部やと養

生守。元和三年江戸に在りし

病ありしを辭し、信部が

ちりしを初雅しく是より辭し

後江戸、出りしに元會成送の事

米地收めせしに、慶長四年信部

傳と揚い、是を見、此の事あるに
らる。寛永十七年二月八日に七千
九歳

勝治

四郎左衛門 半郎

元和八年二月初見、寛永中父祖
の軍功と賞せしに、新よ三百俵給
り、父別後の家相續けり

清熙命と為り大正為作有る。
同十年月加秩二百俵。同十一年
七月八日病に起る自教二十人
浅草に於て長教と云

勝定

権三郎 采女 亦在り

二輩の時父死せしに誦武約り人
家終よく祀父後江郎刻勝定
引云云其後伯父半在處勝定

教末子守

勝業

半在處

寛永十六年二月十日初見。同十七年
三月廿九日新親二百俵約り亦在等
作有る。明暦三年三月日月俵
十人の約り。寛文年中加秩百俵
揚り月俵の由。正宝七年土月

加祿百俵。天和三年三月。元
小菅信。元禄六年四月朔。死。年一
歳。同寺。

勝盛

与右衛門

常憲院殿。沖代。石山。仁。勲。元
禄八年三月。死。年九。歳。同寺。

勝奇

与右衛門

長左衛門

常憲院殿。沖代之男。忠。从。元禄
七年。日。死。信。小菅。信。同。九年。首
同。死。年。又。同。寺。

勝定

与三郎 采女 亦在

家新。終の。後。伯父。在。右。門。信。采。の。末
子。ら。り。寛。文。二年。三月。十。日。死。同。

源氏

常憲流殿子孫瑞一兵衛八年十月廿
新出石山道別家

後利

源氏
源氏

實同姓孫在源氏後房三男
元祿九年七月九日解表子家待小
曾孫○同十四年十二月廿六日
○正徳四年八月十日二條立書

正七某家系

勝昌

源氏
源氏

正徳四年十月廿九日家待小曾孫
享保十四年三月廿七日立書。家待
二年十月廿九日立書。組氏。同正
年十月廿九日相書。源氏。源氏
立書。源氏。二條立書。源氏

おき一統の月見を急ぐ格日月
共の孝通清元。安永三年四月
女乃死之千二歳長致子子受

勝充

主膳 左兵衛 杉本郎

宝曆八年四月廿二男初生。昭和
八年二月十日初生。安永三年
七月八日家傳小普請。天明二年
二月甲子大出陣。

勝興

左兵衛 夜馬

実徳昌四男

寛政七年九月十二養子。同九年
二月十八日初生。同十一年四月廿九
藝術出精育人出陣。

大勸院殿御印

印 秋浦。

平姓

高三百俵十人扶持

家紋

九曜
九月三日

秋浦右左衛門右衛門

重勝

新右衛門

正保四年十一月廿八日正出之北半

○寛文六年二月十八日半人組

元禄二年四月九日水弓矢除

○元禄九年（寛永六年十月十日）死。年九。葬小日向。訖。之。子。孫。
○享長十九年。方。飯。西。陣。の。時。父。在。
成。拜。所。以。由。程。冊。寛永十年十二月。
老。百。重。播。讓。更。今。似。不。持。

勝明

与惣左衛門 致江 誠心
實同姓十五郎勝吉沈男
元禄四年十二月二十日大出。寛永
元年八月九日。出。播。物。方。同六年十二

月廿五日。家。法。○享保元年十月十日。
病。死。也。寛永。同八年十二月廿五日。没。
仕。同十年七月十日。死。年四。葬。甲。
刈。東。之。寺。子。孫。

勝安

織部

寛永六年四月十日。大出。番。子。孫。係。約。
子。○享保三年十一月。病。死。年。唐。
年二百。係。と。同。又。年。又。有。

廿六日死。年四。家系小日向。龍光子。受

兵部

勝美

初常敬 重隆

享保五年十二月十日二男惣次。同八
年十二月廿六日家督小菅隆。同九
年八月十二日甲府勤番。寛保五年
七月廿六日甲州先克寺受

勝負

与惣次。主格 忠義

実小川新右衛門 盈長二男

元文二年十二月十八日養子。寛保三
年十月廿六日家督甲府勤番。享保
三年四月初七日。寛保九年
十月廿七日。改在徳根十又板。寛政
元年四月。老幼小菅隆。寛令二叔。同

年九月乙亥死。年七十。葬江户谷中。以香
寺葬。

貞周

左膳 半十郎

至德八年六月乙亥。年二。男。惣。从。寛政
元年十二月乙亥。故。甲府勤番。同
二年十二月乙亥。年一。男。甲州。左
光。子。葬。

満貞

新太夫。年一。

実徳貞三男

寛政三年二月乙亥。年一。男。甲府
勤番。

大猷院殿御代

松浦

必理



源姓

高七十俵五人掾

家紋

濁功角有ニ色
丸ノ内考

甲斐國信人余麻野殿在處の政事口男

久改

神谷市之傍

大猷院殿御代也此院經院神谷市在處の

書子成り正保三年二月七日也此院に

於て是に故市在處の書子出生二月年

乾養子之難也。此後之難也。其心也。其安也。

曰年
大猷院殿薨。御二月。先下。御入。御二月。落
髮。休年。万治三年八月十八日。死。若
龍谷寺葬。

久孝

安玄清

母方苗字之稱

延享七年七月廿日。此後。元禄十
年十月。常陸。此。御用。正徳二年

八月廿八日。此後。目月。同六年。同二月
此。幼定。三。源。安。房。上。總。下。總。巡。見。水
用。享保二年。此。目月。此。藏。少。二月。小
若。若。信。同。年。又。年。十二月。改。任。同。十
七年二月七日。死。此。年。同。寺。

久寛

若玄清

宝永四年九月十日。此後。享保十三

年二月七日死。享年三十三。葬同寺。

惣十郎

孝元

享保九年十月廿一日。元元。同。又
年十二月。家督小善信。享保
十六年六月廿八日。元元。元元
年八月。日光法堂社。元元。元元。
同。享保七年七月。元元。元元。元元。
年四月。元元。元元。元元。元元。

得信。元元。元元。元元。元元。元元。元元。
享三年四月。元元。元元。元元。元元。
八年九月八日。元元。元元。元元。元元。

久年

文左衛門

宝曆八年十二月。元元。元元。元元。
同九年十二月。元元。元元。元元。元元。
同十年十二月。元元。元元。元元。元元。

同十一年八月五日丙午九勃。同十二年
年四月丙午場始分派之勃浪二枚。
同年八月丙午之百官之分派之
勃浪二枚。同十三年増上等中堂
向水修復法用廢浪十枚。同年十二
月廿九日丙午法修復法用廢浪三枚
別浪二枚。同十四年四月三列風車
寺同水打應寺之法用丙午同十五年
四月廢令午枚。同十四年十二月丙午
永法修復法用廢浪五枚。同十五年八

月三列右田橋出耳榮見令法用令午
為。同十六年十二月丙午表奧向法修復
法用浪十枚。同十九年二月廿九日丙午
勅令出法門之五樽多揚矣二月廿九日
骨打三有廢詞。同年十二月上野法修
未和院失法法修表未法用浪五枚。
同年十二月廿八日橫江法表法修場之
為國法修表未出園法三候廢立地
法用浪十枚。安永三年為國橋掛並

出用。同年六月甲別川。出費信出用
同年七月廢根七枚。同年九月日
光津社系出用。同年十二月あ承揚掛
出用。廢根十枚。同年同月田安
姫衣出用。引揚。出用。廢根十枚
。同八年正月七日。日光表。出深密
出用。同年四月日光津社系信出
廢令。千あ別。信あ向。根三枚。同六
年七月日光
津家。出信。信見。出用。令。千あ。同年

十二月廿九。上別世良田。津家。出修復
出費。栄見。出用。廢根。八枚。同七年
二月十日。小費。信。出用。同八年二月

孝恭院殿。出費。送。出用。同三月。出詳。殿
出費。信。向。出修復。出用。同四月。出葬
送。出用。廢根。十枚。同九年六月。信
出費。出。出。出。令。三枚。天。信。三年
二月。上野。出官。出。出。信。信。向。出修復
出用。同年十二月。廢令。三枚。出。信。二。同

六年三月廿七日大奥向水修復所用
令一枚。同年十月蓮光院殿二座、
水川橋石修復所用。同七年四月廿
日、寶令一枚。此時大向奥向水修復所用
並勤之。為修復七枚。同年
將軍宣下。有津城。因亦水修復。水
用。同七年九月廿七日。寶令一枚。同
年。吹上。水。橋。石。修復。水。修復。所用。同
八月。根。十。枚。同八年九月十八日。大
奥。向。水。云。園。系。亦。水。修復。所用。寶。令。

一枚。同年十二月廿九日。水。川。橋。通。院
水。堂。之。亦。水。修復。所用。寶。令。十。枚。
寶。令。元。年。同。六。月。廿。七。日。抽。本。亦。多。門。石
垣。築。亦。水。修復。大。奥。新。亦。水。修復。
亦。用。寶。令。之。枚。別。後。根。亦。枚。同。三。季
十二月廿九日。大奥向水修復所用。寶令
一枚。同四年四月十日。元平八年。氣
同寺。

盈永

文友集

安永八年十二月八日初見。寛政四
年七月三日家後小當信。同八月
二月八日引下勤少之。此後目月。同
七年二月二日小當信。同八年十月
九日後継流殿願亦位牌下向小當信
此月後浪十枚。同年十二月廿九日
此月東海寺。津成之流去園向寺外

此後復亦用後浪七枚。同十年二月
廿七日二九津殿向此後復亦用。同年
月七日津鏡亦用此後復亦用。同
浪五枚。同年十月十三日大奥亦廣
亦長尾亦用此後復亦用後令一枚。同
七年三月晦日二九亦殿向此後復亦
用後令一枚

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 信, 院, 成, 式.

信院成式



叔浦

平姓

叔浦右衛門信信二男

家紋

九月横三ツ川
裏着九曜
三ツ川菱

高三百俵

勝明

勘次郎

頼母

有無

延享三年八月方新親石出

萬次郎殿近習番現米五千石二千

人口約八〇同四年七月方夏詰物

後廣時後河原。宝曆六年二月
十日第次郎殿出略云叙。同七年上
月十五日用人御付。是日二百儀云。
之儀云。同年十二月十八日布衣。
同九年十一月廿九日第次郎殿。此
階坊。同十二年七月十五日小性氏
兼叙。同十二年十二月三日馬掛。
同十二年四月三日第次郎殿。同
八年四月十日泊番。是日二百儀掛

安永三年三月十日第次郎殿。同
二年三月十日第次郎殿。同
九年十八日現米。是日二百儀
之。加掛。同。是日二百儀
日廣浦向懸掛。同年十一月廿六日
年出籍。是日二百儀。同
八月九日第次郎殿。是日二百儀
自礼到。是日二百儀。是日二百儀
是日二百儀。是日二百儀。是日二百儀

受自分情のなる。同年十月新
情沙也。寛政元年十二月廿八日
我仕。同年六月廿九日。死。七十四歳。
弟の名長也。等々。

勝福

九門 大膳

安永五年九月廿五日。家内郷殿小
姓。三郎。又。永享四年七月七日。物次格。同
八年八月十日。追寄番。寛政元年

十二月廿八日。家内郷。同六年八月廿日
追寄番。取。同七年七月八日。郷殿
遊云。二月十八日。海調取扱。同年同
月廿五日。落髮。同年八月廿五日。次
遺令。二年。為。同。同年。同月。廿日。
清水。奥。向。勤。勤。同。年。十二月。廿日。
清水。奥。表。勤。勤。同。年。十二月。廿日。
月八日。清水。勤。勤。同。年。七月。
廿八日。教。之。物。殿。清水。奥。任。任。也。也。行。

西曆五月廿九日。同年十二月廿日
廢浪子校

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

校浦 高三百俵

平姓 家紋 丸上内横三ノ月
五ノ木ノ菱

校浦武主侍改令之男

左之助 与七郎

典治

延享七年八月七日津西流敷水姓。同年

八月廿七日傳并人口納入。同八年

二月廿七日西丸、修年。三和元季



三月廿二日少平丸、受二月位年同日
三百俵言、受、賜、同三年同日
月廿八日

降德院殿遊去二月同年六月十九日
一同小名長治。元禄十三年三月廿日
出書院番。享保六年十月廿七日
病歿小名長治。同十六年九月三日
死、年一歳、名中佛、号、三、

久孝

勤治 与七郎 三樂 没仕

实 久保安親子家耳 松浦平太夫久長二男

享保八年二月十六日解卷子。同
十六年十二月二日家督小名長治。元
文二年十月廿日西丸出書院番。家
曆八年十二月廿八日病歿小名長治。同
九年十二月十八日没仕。同二年十二

月十九日死六十八歳同寺

政繁

又五郎 又左衛門

実石原勃左衛門安種之男

宝暦六年十二月廿七日薨子。同九

年十二月十八日薨。小菅信。同十

年六月十日薨。出書院高。同十一年

十二月廿八日死。年八十八歳同寺

好忠

三太郎 或部 与七郎 又左衛門

実同姓太字好政二男

明和元年二月又日薨。養子。家信

小菅信。同九年八月廿四日薨。西九

小菅信。安永二年十二月廿七日病

死。小菅信。享和元年五月二日西九

出書院高。同六年正月廿七日薨。上

大納言殿附

大納言殿附。寛政二年四月
二十日奉九勅。同日奉十月十日
奉戸部筋水修与多村多同午二日
内振之。同日奉九月十日奉大納
言院附振二。同日奉二月八日奉
原水将弘跨馬。同日奉十一月十日

大納言殿附

大納言殿附

高二百俵

平姓

家致

九月三日

大納言殿附。正成二男

正成

孫在案

安二年。月日。石出。建二百俵。納言

清揚院殿附。大納言殿附。寛文元年

月白加秩百俵。同六年正月十九日死
小日向龍具寺發

勝房

孫又左衛門

寛文二年月日梅田津殿、右少左
宗小姓組。同六年月日家終。元
禄八年月日出使役。同十二年月日
甲府出立子役。宝永元年月日
文昭院殿西丸、津入、右相、右少左。

同三年月日病免小普信。同日在
十月七日死。年七。葬同寺。

勝譽

数馬

致仕
松声

元禄八年月日梅田津殿、右書院番
。宝永元年月日
文昭院殿西丸入、右少左、右少左。
同四年十二月日家終。同八年月

日西九納戸。○正徳元年七月十八日
相方本番。○同三年五月十八日相方
内書取心内書院番。○享保十二年四
月日病免小普請。○元文二年十二月
六日改任。○寛保三年八月廿七日死七
十四歳同寺

勝征

庄名 常力 後次郎

元文二年十二月六日改任小普請。

同三年五月十二日西小姓組。延享二
年九月初日
大納言殿附。○宝暦八年七月五号死同
三歳同寺

勝里

庄名 要人 五左衛門

宝暦八年十月四日改任小普請。
同九年二月七日亦小姓組。同十年

十月三日病免小倉多信。明和二年
八月七日西九水小姓組。同九年六月
十八日病免小倉多信。安永八年六
月廿七日書院為。寛政七年三月
五。小倉原水將少約。子。

大猷院殿沖代

收浦

高二百五十俵



平姓

家紋

九角横三ツ
三ツ松川菱
九曜 表考

收浦右左衛門右成三男

勝者

十左衛門

大猷院殿沖代右出。道。唐米二百俵

揚り。大。唐米。と。令。せ。ら。る。

大猷院殿沖代右納戸。寛永八年八

月形ツキノタテ死小日向就真寺ミコトマケノマコト三安

勝治ツツシ

又郎ツツシ

教有院ツツシ殿

常憲院ツツシ殿ツツシ代新ツツシ高ツツシ。家ツツシ。加

秩五千ツツシ俵。元禄五年十二月十二日

死同寺

勝長

新十郎

元禄六年十二月九日大ツツシ。同

十二年月ツツシ家ツツシ。同十六年月日

病ツツシ。享保二年八月十日

死同寺

勝政

十ツツシ

任織

享保三年十月九日家法小書信
○同十二年十二月十日大書書○同
十二年十二月七日西九月腰折方○
同十七年二月十日新書書○元文
元年七月八日病免小書信○延享
二年正月九日西九月納戸○同四
年八月廿日西九月新書書○同八年
八月十日病免小書信○宝曆八
年十二月十九日被任○同十二年十
月七日死同寺

勝盛

又郎左衛門 伊之助

宝曆八年十二月十九日家法小書信
○同九年四月八日大書書○同和為
七月十日死同寺十七日同寺

勝重

伊平右 伊三郎

文徳改三男

明和六年十月六日養子家清小菅
清。同年十二月廿六日大内。同八
年十二月日死。新中。安永二年
七月廿八日病死。小菅清。同三年
六月廿七日。山崎。同四年
三月廿五日。同五年二月廿日病死。小菅清
新中。同六年十月十日。同七年
十月十日。同八年十月十日。同九年
十月十日。同十年十月十日。同十一年
十月十日。同十二年十月十日。同十三年
十月十日。同十四年十月十日。同十五年
十月十日。同十六年十月十日。同十七年
十月十日。同十八年十月十日。同十九年
十月十日。同二十年十月十日。同二十一年
十月十日。同二十二年十月十日。同二十三年
十月十日。同二十四年十月十日。同二十五年
十月十日。同二十六年十月十日。同二十七年
十月十日。同二十八年十月十日。同二十九年
十月十日。同三十年十月十日。同三十一年
十月十日。同三十二年十月十日。同三十三年
十月十日。同三十四年十月十日。同三十五年
十月十日。同三十六年十月十日。同三十七年
十月十日。同三十八年十月十日。同三十九年
十月十日。同四十年十月十日。同四十一年
十月十日。同四十二年十月十日。同四十三年
十月十日。同四十四年十月十日。同四十五年
十月十日。同四十六年十月十日。同四十七年
十月十日。同四十八年十月十日。同四十九年
十月十日。同五十年十月十日。同五十一年
十月十日。同五十二年十月十日。同五十三年
十月十日。同五十四年十月十日。同五十五年
十月十日。同五十六年十月十日。同五十七年
十月十日。同五十八年十月十日。同五十九年
十月十日。同六十年十月十日。同六十一年
十月十日。同六十二年十月十日。同六十三年
十月十日。同六十四年十月十日。同六十五年
十月十日。同六十六年十月十日。同六十七年
十月十日。同六十八年十月十日。同六十九年
十月十日。同七十年十月十日。同七十一年
十月十日。同七十二年十月十日。同七十三年
十月十日。同七十四年十月十日。同七十五年
十月十日。同七十六年十月十日。同七十七年
十月十日。同七十八年十月十日。同七十九年
十月十日。同八十年十月十日。同八十一年
十月十日。同八十二年十月十日。同八十三年
十月十日。同八十四年十月十日。同八十五年
十月十日。同八十六年十月十日。同八十七年
十月十日。同八十八年十月十日。同八十九年
十月十日。同九十年十月十日。同九十一年
十月十日。同九十二年十月十日。同九十三年
十月十日。同九十四年十月十日。同九十五年
十月十日。同九十六年十月十日。同九十七年
十月十日。同九十八年十月十日。同九十九年
十月十日。同一百年十月十日。

同年十二月六日改位

勝定

伊予守

享和二年十二月六日家清小菅清。
寛政八年十月廿八日初見

大猷院殿神代
大猷院殿神代
大猷院殿神代

大猷院殿神代

松浦

言二百俵十人扶持



平姓

家紋 九曜 九月三日

松浦後次郎則勝次男

勝成

源在東門

安永二年八月日西在東門下出立
同奉十二月廿七日唐米百俵納入。
明曆二年十二月日加納百俵。寛文七

年十二月日及傳十只成加感あり。
天和元年四月五日奥出右等。元禄
元年四月廿八日死。小菅清。同年
五月廿五日死。

勝直

源右衛門

貞享四年十月廿八日表出右等。元禄
元年七月日表出。同年二月日
病死。小菅清。同年正月十日

死

勝久

文内

实松野孫右衛門某男

元禄十二年二月十九日表出。表出
小菅清。正徳二年十月廿八日死

法秋

源右衛門

之矣同姓与惣右衛門勝貞三男
正徳三年正月十六日養子家持
名實清○享保九年八月十日
勤番同年九月廿八日出陣○宝曆
三年三月十日死享年三十一
寺子安

勝恒

安五郎

之矣福清長左衛門五春二男

白子四年六月日解養子○宝曆
三年六月十日家持甲府勤番○明和
元年七月新右衛門相湯○天保
四年七月七日死享年四十一

勝義

長三助

天明四年三月十日家持甲府勤番○

天保三年九月三日初見。同年同月
廿三日新田山下之礼亭。同年十二月

大猷院敏沖代

叔浦

言百儀十人技抄

平姓

家紋

丸棧三三川
鞠棧

叔浦孫一郎親貞只代之孫叔浦孫房

親孫二男

松之儀

親友

安永三年九月三日初見。同年同月
廿三日新田山下之礼亭。同年十二月

月七日傳十人口物入。氣應元年
十二月十八日唐米百俵と賜り。實祿
百俵十人口と成り。明暦三年六月
日病免小普請。寛文二年四月廿
日死。後身中教寺地中長教寺。子
孫ふ。

親時

彦六郎

實親孫四男

寛文二年十二月九日養子家傳小
普請。同日奉十二月廿。半人組
○病免小普請。元祿十年十月廿
日死。同寺。

貞利

源之丞 八郎左衛門

實親孫五男

孝子。元祿六年十二月廿。半人組

○同十年十月廿六日父死同子二月
或元乾。宝永元年六月晦日病死
小室。享保十四年九月廿七日死
享年一歲麻布徳養子。死。

浩亮

金太郎 源三郎

享保十四年十月十日家傳少室
浩。同十八年八月廿九日半人絶。
元文二年十二月二日病死小室。浩。

同日年二月廿六日死享年七歲同寺

良昭

狭子郎 源三郎

享保十四年正月
實良良津甚左衛門良昭二男
養子。元文四年六月二日家傳小
室。浩。同年十一月廿九日半人絶。寛
保三年十二月九日右衛門源昭迫習
者。延享二年十月廿八日小次郎源附

○宝曆二年正月七日小治郎殿逝去
 二月同日年二月新在武内侍殿逝
 智考○同八年十月新在武内侍殿逝
 ○同九年十二月十九日同不記院。同
 十二年十月十三日同不廣費用人助。
 同和二年正月廿八日同不廣費用人
 ○同八年六月四日同安中納言殿逝去
 二月同年七月八日大藏少輔附殿逝
 三年十月廿日同不用人助。同四年
 四月廿日同不用人同年十二月十六日

布衣。同七年六月十八日廣之惠殿因
 安清相續作出之通兵令近之也也附
 ○同八年三月新。同不書院指用人。
 寛政四年九月十日同不書院。同七
 年六月廿四日老免寮令。同十年
 三月廿日死七十八歳同寺

義啓

仙之惠

安永八年八月廿二日初日。同年十二月十九日半人組。元禄元年十二月七日西北角。同二年十月四日。同三年十月四日。同四年八月四日。同五年二月廿九日。同六年二月廿九日。同七年二月廿九日。同八年二月廿九日。同九年二月廿九日。同十年二月廿九日。同十一年二月廿九日。同十二年二月廿九日。同十三年二月廿九日。同十四年二月廿九日。同十五年二月廿九日。同十六年二月廿九日。同十七年二月廿九日。同十八年二月廿九日。同十九年二月廿九日。同二十年二月廿九日。同二十一年二月廿九日。同二十二年二月廿九日。同二十三年二月廿九日。同二十四年二月廿九日。同二十五年二月廿九日。同二十六年二月廿九日。同二十七年二月廿九日。同二十八年二月廿九日。同二十九年二月廿九日。同三十年二月廿九日。同三十一年二月廿九日。同三十二年二月廿九日。同三十三年二月廿九日。同三十四年二月廿九日。同三十五年二月廿九日。同三十六年二月廿九日。同三十七年二月廿九日。同三十八年二月廿九日。同三十九年二月廿九日。同四十年二月廿九日。同四十一年二月廿九日。同四十二年二月廿九日。同四十三年二月廿九日。同四十四年二月廿九日。同四十五年二月廿九日。同四十六年二月廿九日。同四十七年二月廿九日。同四十八年二月廿九日。同四十九年二月廿九日。同五十年二月廿九日。同五十一年二月廿九日。同五十二年二月廿九日。同五十三年二月廿九日。同五十四年二月廿九日。同五十五年二月廿九日。同五十六年二月廿九日。同五十七年二月廿九日。同五十八年二月廿九日。同五十九年二月廿九日。同六十年二月廿九日。同六十一年二月廿九日。同六十二年二月廿九日。同六十三年二月廿九日。同六十四年二月廿九日。同六十五年二月廿九日。同六十六年二月廿九日。同六十七年二月廿九日。同六十八年二月廿九日。同六十九年二月廿九日。同七十年二月廿九日。同七十一年二月廿九日。同七十二年二月廿九日。同七十三年二月廿九日。同七十四年二月廿九日。同七十五年二月廿九日。同七十六年二月廿九日。同七十七年二月廿九日。同七十八年二月廿九日。同七十九年二月廿九日。同八十年二月廿九日。同八十一年二月廿九日。同八十二年二月廿九日。同八十三年二月廿九日。同八十四年二月廿九日。同八十五年二月廿九日。同八十六年二月廿九日。同八十七年二月廿九日。同八十八年二月廿九日。同八十九年二月廿九日。同九十年二月廿九日。同九十一年二月廿九日。同九十二年二月廿九日。同九十三年二月廿九日。同九十四年二月廿九日。同九十五年二月廿九日。同九十六年二月廿九日。同九十七年二月廿九日。同九十八年二月廿九日。同九十九年二月廿九日。同一百年二月廿九日。

東照宮御代

松浦 高百儀十八人技師

藤原 家紋 丸三和松

先祖不詳

助左衛門

東照宮御代河上清彦時出使番。

小牧長久手大陣佐守。長久手

年冬別番母少之孫



某

基

久々坊

東照宮圓東山入國之長初少少く依
年也凡。是長十二年山院上石
山。凡。古坂山陣。凡。

名徳院殿依年山内陣の及後長山
山。元和二年山山子と力の二九
少く山の作付。山。山。山。山。
名徳院殿山地界の山山山山山山

山佛殿山番と勤む。山道令山
。正保二年十月十四日死五十年山
小石川家山寺山山

伯江

久々坊

正保二年月日山山山山山山
。山山山山山山山山山山山山
月廿七日死五十七歳山山山

義勝

久多坊

正徳六年八月七日家持の正徳
元年八月に廣教法親王の同年九
月沖田山に有る毎夜念老物等相成
此表出御あり相得し此念清用と
勤心の正徳六年二月七日死す
又兼同寺

伯方

久多坊 竹之助

実義法親王
正徳六年二月七日家持の正徳
元年八月に廣教法親王の同年九
月沖田山に有る毎夜念老物等相成
此表出御あり相得し此念清用と
勤心の正徳六年二月七日死す
又兼同寺

某

助左衛門 助次郎

天曆二年四月三日家後小書院
○明和四年十二月廿六日水院目付。
同七年正月廿三日場始外係和氣同
月十日齋浪二枚。安永二年八月
廿日鎌倉少之祿向大筒始古見分
所用。同八年四月廿九日社末
供年。同九年十月廿九日上野中堂
徳堂社水院後所用増掛。同六年
七月九日齋浪十枚。同八年六月
廿六日二九大奥長向向系外水院後

水用掛同年五月廿九日齋浪七枚。
天和四年七月十日小書院後改
役。同五年三月十日梅田安祥院
長局向惣水院後所用同年十二月
廿七日齋浪五枚。同七年四月廿四
日水院始向系外水院後所用同八
年五月廿九日齋浪十枚。同七年十
月令地院清祈禱殿大書院系外
新親水書院水用是也同年十二月

共九百餘根。同一年三月廿九日
川内通院清廟旦。中堂清靈殿不
主外。此後復出用。且旦。同一年同日
廢根七枚。寛政二年九月二十九日
書院遠侍竹之間。主外。此後復出
用。同三年十一月八日。廢根七枚。
同八年八月子辰。大稻掛。此後
復出用。同年十二月六日。廢根七枚。
○同六年四月。清瀧。清用。同年八
月七日。廢根五枚。同年十二月廿七

小菅清瀧。清用。同日。紅葉心
清瀧。此伏廊下。並上下。此伏。不。不。不。不。
此後復出用。同七年九月廿五日。廢根
十枚。同一年七月。評定。不。白。明。旦。清
主外。此後復出用。在。場。主。外
清用。此後復出。中。此。場。不。敷。糞。有。引
續。亦。不。當。清。此。用。同。八。年。三。月。十。四。日
廢根十枚。同一年三月廿二日。西九
大。奧。長。局。白。主。外。此。後。復。清。用

同年十二月廿九日德令一收骨形行
根十枚。同九年四月冲瀆亦用同
年八月七日德根五枚。同年十二
月晦日紅葉心

常憲浣殿

有德浣殿冲靈屋向王外古亦修復亦用

同十年十月七日德令二枚。同年

十二月亦同所

有德浣殿冲靈屋靈花池門拈天井水

彫物亦修復亦用同

十年七月十二日德根十枚。同十年
三月廿七日二九亦殿向亦廣亦向亦槽
亦多門亦亦亦修復亦用同十年三
月晦日德令一枚

東照宮御代

松浦

高二百俵

平姓

家紋

丸内横三日月
丸内松皮菱

松平太郎義國土代孫



幻勝

後次郎

東照宮より

大猷院殿と沖之代年記。天正三年春

別長藤少々武田信賴下小倉戦の尉

父子共々修年、孝長八年、少長
少正、近修年、以何石田、治中、捕三威
送、意、少、く

東照宮用西津敷向、言

右徳院、修年、孝長十九年、大坂、此
陣、力、在、強、戦、一、旅、と、意、可、且、た、の
手、法、能、中、リ、二、刻、の、内、修、守、元、和
元年、江戸、ト、右、と、病、少、く、を
辞、退、守、於、嫡、男、半、郎、石、を、終、
の、名、命、有、一、と、初、雅、る、一、の、ハ、程

辞、退、し、ま、る、後、江戸、ト、出、つ、と、命
は、送、り、ひ、か、て、赤、地、帳、を、せ、つ、と、唐、来
甲、午、儀、二、月、修、之、約、り、富、士、見、九
出、為、守、指、出、為、作、付、ら、る、。寛、永、七
年、二、月、八、日、死、七、十、九、歳

勝治

半郎 四郎 左衛門

元和八年初見、〇祖父時勝生涯、教、友

忠我英父別後義年を教養の戦切
りよりして父別後再度上意に背
くは河也まらたるといふ。寛永年
中新母石出さん二百俵納り重
大由由作付もして社父文三氏教養
の戦切よりして此後別後石出さん
し。父別後の名取は相續す海
し。西郷命と家。同十年が
秩二百名。同十一年
大新院殿清上流の依系。同十一年

七月九日病よりして自教二十八年
清乃中教守地中七教寺英

勝定

権三郎 未女 又在野

父清治自教の付二歳小女し加海武の
し。此家維よりして社父別後より老にハ
ま。是後伯父清兼より養育せらる付
又別後の様子を成。寛文二年三

月十二日 祢田少々

素憲院殿小初見。延宝八年十月
子西丸上水橋の河内小性組。元和
三年徳和君の通玄。同九年九月
廿二日一統小菅清。貞享二年四月
月廿日大由為。元禄四年五月廿
二日死。八歳同寺

勝清

新十郎 孫七郎 又在 左 在 坊

貞享二年七月十二日初見。元禄四
年七月廿二日家持小菅清。同七年
五月十八日相。同九年同。同
月二十日通。同九年九月十八日
大由為。享保十八年九月九日死。六
十八歳同寺

勝年

龜之助 源次郎 後次郎

実徳定二男

正徳五年八月十八日初見。享保十二年六月十六日死同寺

勝成

後次郎

実

此年三歳大野教子某三男

享保十一年十二月十九日養子。同十六年三月廿八日大水害。元文三年八月十六日死。年一歳同寺

勝行

又郎二郎

後次郎

元文二年十一月二日家傳小名實徳。室曆五年三月十六日大水害。同八年六月廿七日死。年七歳同寺

勝若

又郎二郎

實白坂村六郎孫長二男
寛政八年十二月廿七日養子松清小
養子

有徳院殿

松浦

高二百俵

源姓

家紋 丸内角重
丸内横三川



先祖不詳松浦忠左衛門兼次養子
實六日浦若三傳某二男

休考

嘉右衛門
玄真

初紀伊大納言殿、身任、享保元年
四月晦

有徳院殿二九、御入之江信年。同年
六月廿八日出家。同十年正月
八日免。小室。信令之教。同
九月廿二日没。同十八年六月廿
死。七十九歳。芝青社寺子。葬。

孝里

善三郎

没

休

享保十年九月廿二日。家。小室。信
同十二年二月廿七日。米人。同十三

年六月廿九日。西。納。延享二年九
月。納。寛延三年
十二月廿八日。病。小室。信。宝曆十
四月九日。没。同八年十二月廿八日
六十九歳。同。

孝章

善太郎

宝曆二年四月。家。小室。信。同

八年六月廿日西九半之延。同十一年
八月廿日西九半之延。同年十月廿日
死。享年二十二歲。同寺。

存兼

義左衛門 赤左衛門 吾六郎

宝曆十一年十一月廿日。家持。小若。信
。同二年八月廿日。西九半之延。
同六年同十月廿日。西九半之延。寛政
八年十二月十日。

若君附。

寛政元年二月十七日。次上大的上院
。同六年二月廿日。同上。同
年十月廿日。同上。

名徳院源氏代

叔浦

言百子儀

源姓

家紋 たり二色



先祖不詳

正恭

ニ在ル

元和六年八月廿九日。寛永十六年
十一月日表之書。明暦二年三月
日奥之書。寛文九年十一月日表之

○延宝三年八月九日法皇元三
十三百卷家法寺發

富之

古右書

寛文四年月日西院上右出され別院
より約りし父と家法寺より書
某より約りし〇年月不知
禁裏西書信御用と約し〇貞亨
十月七日西院組以言百五十年信約りし

宝永三年九月十日西院寺

其

三右書

寛文九年三月日正泰と家法寺
より約りし父と家法寺より書

元改

小右書

寛永二年十一月夜燒小菅屋。正
徳八年八月廿又自死同寺

富元

右左衛門 左市郎

実富之二男

正徳八年七月廿六日養子也。曾

小菅屋。享保六年十一月四日素火

之由。元文二年四月廿六日自死。組

以。延享三年二月十八日小菅屋方

寛延元年十月廿九日上野

至心院殿。御願所。水鉢殿。水舎。清涼

齋。浪十枚。同年十一月廿二日。位

牌。水舎。修復。所用。齋。浪十枚。同日。在

八月七日。駿。忍。久。能。心

御。家。水。舎。修復。見。分。御。用。之。一。七。越。有。令

二枚。付。後。云。代。御。心。至。應。享。三。年。二。月。廿

二日。駿。忍。久。能。心

清。涼。水。舎。修復。所用。之。一。七。越。有。令。全。夜

時後二。同十年十月八日。出後復。出用。讓
令二枚。同九年十一月廿四日。西國。揚
掛。出。出。後。出。用。磨。浪。千。不。枚。同。年
年。十。月。廿。五。

沖代。智。守。軍。宣。下。出。用。磨。令。二。枚。
○。宝。曆。十。年。二。月。廿。八。日。出。後。場。不。不。
相。應。三。月。出。後。場。之。小。磨。浪。入。五。枚。
同。年。八。月。十。日。出。後。場。之。小。磨。浪。入。五。枚。
年。九。月。十。日。出。後。場。之。小。磨。浪。入。五。枚。同。年。

富明

吉平

宝曆十二年十一月十日。家。後。小。磨。浪。
○。明。和。八。年。十。月。二。日。西。凡。小。十。人。組。
同。八。年。八。月。廿。日。病。死。小。磨。浪。○。寶。曆。
七。年。十。一。月。廿。四。日。之。子。磨。浪。於。左。市。郎。
出。後。場。之。小。磨。浪。入。五。枚。中。揚。浪。者。五。
出。後。場。之。小。磨。浪。入。五。枚。同。八。年。

六月廿六日左市郎喜將作月日
月日行又清書をききて同日年八
月廿九日喜將作清久。

富周

左市郎

寛政八年六月廿六日喜將

富久

謙三郎

寛政九年十二月十日卷子
実川村助左衛門秀六郎
西尾正徳貞月組

東照文御代



松浦

高百俵子人杖持

平姓

家紋

九月二日
三三三

三浦大助義明只代松平八郎義永
七代松浦兵部少輔正行二男松浦
五郎之郎重久系於將軍家三徳之子
惣八郎重信惣八郎

重改

惣八郎

東照宮に奉仕津船押役。参州田原

少く死

某

後次郎

東照宮に奉仕奉祿祥与云云

久綱

後次郎

後邊八右衛門義経塔に成り後邊と

稱と云云

東照宮に奉仕味方原出陣の時死

正嗣

松浦半右衛門

伯父松浦惣三清巻子と云云

正福

松浦五郎右衛門

天正年中兄松浦半左衛門正嗣討死
之後初年少之正嗣嫡男松浦辰九郎
恪重同松浦迎家子以養後子之正嗣
養子と云ふ

恪重

松浦左左郎 藤九郎

濱邊半左衛門守綱家系成

政成

松浦河内守

東照天皇奉仕為松浦左衛門元忠子孫
依是松城之時討死

某

松浦久左衛門

濱邊忠七郎忠綱家系成

正嗣

大左衛門

実清子惣次久綱嫡男

东照太子奉仕大須賀五郎左衛門康子組

より一幸別言天祚水陣の時討死

正福

五郎左衛門

实清子惣次久綱三男

慶長十一年水陣に右出せり。同十二年

年駿府に侍奉。同十九年大坂水

陣侍奉。元和二年

古徳院殿附。同七年焼火に同水夜振

番。寛永十八年表火に番。同

十八年奥火に番。明暦二年老免

小普請。寛文二年正月十二日死。东门

跡地中津正寺葬

正親

彦吉

清名彦吉治綱家孫枝浦彦吉
重之孫子也。後出流上石公也。
此子孫祥也。

正信

五郎左衛門

寛文二年父跡武七千懐子(技師揚
子)小吉。同三年奥火之毒
。延享三年十二月奥火。不月
百懐子(技師)成。貞享二年
八月十日死。子千歳。浅草大仏子
孫。

正也

半右衛門

彦吉

五郎七

貞享三年十二月家督小菅信。元
禄二年十一月水鏡目月。同七年十月
夏別方鴻上出用。同十四年八月廿日
死。年八歳。同寺。

正方

彦五郎

元禄十四年七月九日家督水目月死
。無後。同十六年四月廿八日小菅信。

享保六年五月四日家督水目月死。同
二年四月日光社系信在。同八年
二月乙亥配勘定。元文四年八月廿日
清談山用御。寛保元年十月延勤
。延享三年三月駿河守以卷河
。元文四年勢子不巡息御用。同年
五月十日死。年十六歳。同寺。

正武

清太郎

寛延三年八月方家持小菅信
明和四年九月十八日死。年四歳
同守

正平

初正意

五郎左衛門

初

寛五郎

正統組人
實矢部孫一右衛門次隆之男

明和四年二月号巻子家督小
菅信。同七年五月十日水鳥見。
安永九年八月相列強念少く大筒
槍古見と所用。天明四年九月
六年八月高寺在同行所用。寛政
二年九月廿二日星村清用屋敷
定居。同六年同十月十二日水鳥見
組頭

正英

本三助

西九興六坊

實 古田長南傳喜三男

了成二年十月廿二日卷子〇同二年

八月十九日水島見又

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

常憲院殿御代



杉浦

三式百儀

橋姓

家紋 橋 九月廿二日

胡解事由氏後裔淳田大領之末子也
初仕淳田家断絶の時初年少く父子
離散し母を以て和賀國を去り杉浦氏
と稱し和賀令淳地付杉浦と名を承る
惣領

言徳法眼

安重

寛永四年九月八日右衛門督是年分
支那武官儀（御料儀）の同五年八月十八日
涉郎の同五年七月清筆忠信の二字
清書具々も飲の同五年七月八日あり
清書清用の同五年十二月法服同り清書
みくとの世業を飲の同月廿二日
大分府及少延生同書海自清七秋少院
清又指枝

清書所り指枝の同六年二月廿一日
西丸家公の享保五年八月廿一日致仕の
同五年十月大奥より名を道清因清少方
病用○享保八年六月廿九日七拾九歳
麻布寺に病守り子孫

真通

昌順

享保五年六月廿二日家務司家公の同書

十月大奥御用○同十二年十二月廿六日
出石川宮中赤出陣○同十八年九月廿二日
山本之儀決み殺○同二十年十一月九日
赤野御所○延享元年十二月廿六日
松平おきき鳥居地○福氣古切塚つこ
あつさるる方御所つらき○夜松平
と針灸よりおきき鳥居地つらき
のらつらおきき鳥居地つらき○宝暦二年
日之新文出陣つらき○同二年八月

九日死す千一歳同寺に葬

三子傳

安民

延享元年九月十八日初見○宝暦二年
十一月二十日家母おきき鳥居地○同七年十
月九日中書御所○同八年九月廿一日
病中おきき鳥居地○明和二年八月晦日見
山本御所つらき鳥居地○同九年十二月七日

出づるに云ふ所○寛永二年八月七日
又云云○同七年二月又日死に給
ふ衆回守并

三徳 初代橋 三泉

安定

寛永七年十一月六日家督山重治○同
八月又日父方治事在御座を席揚を
あはせられたる何の事清目身念意

同年十一月九日震を席輕直致う
る何の事清目身念意○寛永十二年
又日寛永○天保六年十一月又日
師○寛政二年十月初日療治出候
合○同月又日醫學教世治○同
二月又九日醫學教治精初う
人持持御○同年八月又九日
又年六月十九日
若君清治家治同○同六年十一月又日

法苑珠林卷之八 法世活之友



Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



